

巻頭言 創刊の辞

デジタル人材育成学会 会長
角田 仁

今般、デジタル人材育成学会にて学会誌を創刊する運びとなりました。関係者各位のご尽力に深く感謝するとともに、今後、本誌が社会に貢献していくことを期待しております。

本学会は2021年4月の設立以来、順調に業容を拡大してきました。思い起こせば、設立時には7名だった理事役員は現在40名を超える陣容となり、多くの皆様が学会運営のために日々実働していただいております。また、個人会員と法人会員の会員数も順調に増え続けており、設立趣意書で謳った「この分野に知識や知見を持つ人々が一人でも多く集まっていただき、侃々諤々の賑やかな場となることを望むものです」という姿に一歩ずつ、でも着実に近づいていると実感しています。

本学会進展の背景には、日本社会におけるデジタル人材およびIT人材の不足がさらに顕著になってきたことが挙げられます。デジタル化やDXという言葉が社会的なトレンドとなり、デジタル庁の発足も続きました。それに伴ってデジタル人材やIT人材の不足も一般的に認知されるようになりました。しかし、その課題解決への道のりは遠く、この1年間で何か好転したのかと問われれば、厳しい回答をせざるを得ない状況と思います。

その課題解決への一つの方策として、我々は学会という「オープンイノベーション的な場の提供」を通じて、少しでも社会に貢献したいと考えています。私は、その成功要因の一つが情報発信であると考えています。従来型の学会では、様々な知見を収集して蓄積する機能には優れていましたが、それを社会に発信していく力が弱かったのではないのでしょうか。本学会では、この1年余りで共同セミナーやシンポジウムを4回開催するなど、収集した知見や事例を積極的に社会に発信してきました。そして、今後はその機能をさらに強化していきたいと考えています。

その情報発信の機能強化の一つが、本学会誌の発刊になります。今後、本学会誌が会員各位をはじめ多くの皆様の手にとられ、有益な情報元の1つになればと願っています。本学会誌を末永くご愛顧いただければ幸いです。よろしく願いいたします。